

(別紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・その人らしく幸せに安らかな日々を普通に過ごせるよう支援する」この理念を全職員が共有している。事業所は地域の中のことが見える所(地域唯一のスーパーの前)、人通りの多い道路沿いに存在する。散歩、買物、入浴等で地域の人と交流することが毎日できている。その人らしい生活を楽しんでいる	施設にいることを感じさせない、我が家で自分らしい人生を送ることについて職員同士のコミュニケーションがよく取れている。60歳以上の職員が多いことも利用者に安心感を提供できる環境と思う。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の一帯帯として隣組の組費を払っていて、共同浴場の利用もしている。夏祭り、商工祭、運動会、音楽会、葬儀にも参加している。利用者が徘徊時には、声をかけてくださったり連絡して下さったことがある。公共の場の掃除などもしている	公会堂の落ち葉片付け、地域の婦人団体の旅行参加、近所の冠婚葬祭への間接的参加など、地域との結びつきの強さを感じる。近所から来ている職員の配置が有効に動いているようだ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・所長は、積極的に認知症の講演等の依頼や相談に応じている。又職員は、それぞれ得意の分野で地域の高齢者等と交流している。(ゲーム指導・参加、老人クラブ役員、日本舞踊、三味線の指導、病院等の送迎サービス)		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一回のペースで会議を開き、必要に応じて関係者(地区の役員、民生委員、消防署、交番等)の参加を求め、利用者の変化や一人一人の対応の報告を行い、意見やアドバイスを求め、通常のサービスはもちろんターミナル時の対応等にも活かしている	定期的に推進会議が開催されていることが、丁寧な開催通知で伺える。担当医から終末時の利用者の症状、緊急対応などについて研修が出来ている。	推進会議の通知資料の確認は出来たが会議の内容を示す資料が未整備である。当日の協議事項、参集者、意見集約など整備されたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議は、町の担当者が必ず出席している。退所者があったので、地域包括支援センターに報告して、緊急を要する新しい利用者を紹介され、現在利用されている	推進会議の開催に当たっては行政の都合を優先させて開催している。地域包括とは入所退所などについて連絡を取り合い連携が保たれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・昼間は玄関施錠はせず、居室に鍵はついていない。ベッド柵は起き上がり目的以外には使わない。眠剤等のドラックロックも無い	利用者が施設的环境によく馴染んでおり、施錠の必要が無い環境にある。不穏状況の利用者に対しては決めの細かい対応がなされている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・常に職員と共に学んでいる。特に言葉による虐待は気づかないときもあるもので、その都度注意しあっている。虐待されて入所してこられた利用者には、家族の面会を制限したことがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・地域権利擁護事業を利用している利用者が居られるため、担当者に来ていただき研修を行なった。毎月の利用料や日用品費を届けてもらっている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・H21.1.1.NPOから社会福祉法人に名称が変わり、契約書の名義変更に伴う説明を行い承諾書をいただいた。来所時等に不明な点があれば対応している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会を開き、意見や要望を聞き家族、職員で話し合った。毎月、利用料持参時や来所時は、ゆっくり話し合うように心がけている	家族会は年2回計画している。家族間の交流についても配慮したり、又家族の宿泊も出来る仕組みづくりがされている。家族会とあわせ避難訓練も実施している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・室内の見やすいところに要望箱を設置している。管理者も職員と同じように勤務しているのので、いつでも意見や提案を求め聞くことができる。毎月の職員研修会の機会には必要に応じて代表者の出席を求め、全員で検討している	要望箱の設置は確認したが、職員間の会議研修など充分になされているので利用は少ないように見られた。職員会議が時間外に開催されているが超過勤務手当の支給も配慮されて出席しやすい対応がなされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・事業所の新設に向けて、働きやすい職場環境になるよう意見を求められた。介護福祉士の受験を目標に、研修や模試等も気軽に参加できるようにしている。ケア・マネの受験にも協力している。待遇面で資格手当が支給されていて、処遇改善の対応も行なっている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内の研修は必要に応じて所長が行う。外部研修は、介護福祉士会やG・H連絡会、県や県社協の研修にも参加している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人の理事長はG・H連絡会の理事であり、交流の機会を作っている。北信G・H交流会に全員が参加し、県や県社協主催の研修受け入れも行なっており、幅広い交流をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・生活暦や本人のできること、好きなことを理解する。笑顔を忘れずに、可能な限り寄り添い話しやすいように語りかけ、どんなこともゆっくり、しっかり聴くよう全員が常に心がけている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・電話での問い合わせにも、先ずしっかり聞き受け止める。可能であれば来所して、他の利用者と共に過ごしてみせよう。不安や要望があれば具体的な対応を提案する。再度の問い合わせにも、前回の内容を受け止めて話している		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・喫煙習慣があり、甘い菓子を中心とした食事を摂取していた利用者には、本人の目につくところにタバコを置かない対応から始めた。禁煙とバランスの取れた食事の提供でメタボ改善が見られている。通院等の付き添いや送迎サービスもしている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人のできること(買物の同行、掃除、野菜切り、盛り付け、お茶注ぎ等)と一緒にやり、感謝し褒めながら楽しく過ごしている。毎日の生活の中で、利用者の青春時代(銭湯、製糸工場、軍需工場)の生活など教えてもらっている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月利用者の様子を、お便りとして家族に届けている。利用料は可能な限り持参してもらい、本人の個室での対話や衣類等の確認をしてもらい、食事時やお茶時には、共に飲食しながら支えてもらっている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族や昔の職場・趣味の仲間などいつでも来て思い出話を楽しんだり、戦争中の生活も教えてもらっている。近隣の人も支援してくださっている	20年度については157件230人の家族関係来訪者があり、近隣の方も53件59人の方に来ていただいている。1ヶ月平均13件19人の来訪者ということになり、多くの関係者の支援協力があることが理解できる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・食堂や居間で過ごされるときも、その人の好きな人と自然に寄り添っていられる。又、自室にも自由に出入りされたり、散歩時に手をつなぐなど楽しく過ごされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院された場合も、可能な限り面会し、電話での相談にも応じている。本人が死亡された後も、ボランティアで来所されている家族がある		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人一人の生活を把握し、本人がしたいことや出来ることをやってもらっている。散歩や買物、外出外食、旅行、自室の掃除など本人の希望を第一に援助している	利用者のやりたいことをやっていただき、職員がこれを支援するという基本が徹底されている。利用者が自分に自信を持ち自己主張できる場所だという自覚がある。近所の人たちの来訪に対しても旧知の仲であるかのように丁寧な対応が出来る。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・これまでの担当ケア・マネから情報を得る。ケアプランを立てる際は、面会の折りなどを利用してその都度家族や近親者、友人から、生活歴や暮らし方、趣味などについて話を聞いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の暮らしの中でどのように過ごされたかを記録し、バイタルや排泄、食事の様子、その他気づきを大切に、総合的に把握している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員、家族、ケアマネ、民生委員等本人が安心して暮らせるよう、話し合っ介護計画を作成している。喫煙と甘い菓子、付け放しのテレビが中心だった生活から、今は禁煙に成功した。読書も楽しめている	利用者の人生を肯定しながら、悪循環だった生活態度の更生を実現させるよう職員間で介護計画を熟考した努力が伺える。利用者の気持ちに寄り添う介護計画が職員の努力でなされていることがうかがえる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日関わった職員全員が記録、チェックし、気づきや工夫の情報を共有している。必要に応じてケアプランの見直しにも活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人の受診が必要な場合には、移送サービスを利用し、家族等と外出希望があるときは自由に参加してもらっている。家族、近隣、友人知人が訪問してくれる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・小・中学生のボランティアは、毎年来て交流し散歩、食事等も共にしている。地域の文化祭、日帰り旅行にも参加させてもらっている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・一人一人のかかりつけ医に適切に受診し、投薬を受けたりアドバイスを受けている。通院できないときは往診してもらい、ターミナル時には看取り介護の指導を受けている。死亡診断をしていただいた	かかりつけ医との連絡は密に行われており、看取りについてもしっかり指導を受けていることが分かる。現実には看取りの経験もなされており、利用者及び家族との連携も濃密に出来ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・職場に看護師はいないが、非常勤の保健師に相談しアドバイスを受けている。又、地域の運営推進委員の看護師が気軽に訪問してくださり相談している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には治療計画や退院予定、面会時の対応指示を受け、可能な限り病床を見舞い、医療関係者と連携を密にしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・一人一人の希望を大切にし、常にかかりつけ医、家族と話し合っている。医療行為は不可能であることを家族に伝え理解してもらう。在宅介護を希望し、かかりつけ医が変わるときは、紹介状をお願いし、管理者がご自宅を訪問するなど相談に応じている	困ったときにすぐ対応してくれる元職員の看護師さんがいる。法人の役員でボランティアに近い状態で協力があることは体制的には幸運である。また病院の看護師長などとの連携も出来ていて家族の意向に沿ったサービスが出来ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・毎月の事例検討及び研修時に、急変しやすい利用者や事故発生時に備え学習している。必要時にかかりつけ医のアドバイスを求め、救急車につなげた		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・古い木造住宅の2階が居室のため、災害時の避難が一番心配なので、常に地域の人々の協力を依頼し訓練も行なっている。又、毎月15日には、職員と利用者のみで避難訓練を行なっている	家族も含めたきめ細かな避難訓練が行われている様子が見える。	古い建物なので災害時の避難はかなり厳しい状況にあるように見える。消防署を入れて徹底した職員の訓練が必要と感じる。避難マニュアルも職員の英知を絞って作成されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・居室への出入りの祭は、本人の了解を求めている。関係書類の管理と確認を行っている。命令語や指示語は使用せず、常に人生の大先輩として関わっている	利用者同士の居室訪問も自由にされていて特に問題が起きている様子はみられない。職員が利用者の特性意思をしっかり把握していて対応が実にきめ細やかである。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・散歩、調理、盛り付けなどその人のやりたい思いを知り、「お願いしていいですか」と声かけしている。散歩も「今日は何処に行きましょうか」など本人の行きたい所に行き、必要に応じて周りの様子を話しかける		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・声かけをし、希望に沿いつつ自由に過ごしてられる。個室はもちろん共有スペースでも外を見る人、テレビを見る人、調理の下ごしらえする人と自分のペースでやってもらっている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人の衣類等は居室に収納してあり、着たいものを上手に着れるように、「素敵です」「よく似合っています」など声かけをし、理・美容も本人の希望する髪形や店に行ってもらえるよう支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事は好みと量を大切に、職員も共に同じものをいただいている。納豆づくり、卵を割る、野菜の下ごしらえ、お茶入れ、盛り付け、食器の洗浄・拭く・収納など本人がしたいことを活用し、出来ることを支援している	利用者の食事作りへの参加が自然に行われていて大きな家族のような雰囲気が漂っている。近隣の人家族からの野菜などの差し入れが多いことも素晴らしい。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日の献立はバランスや季節の食材を常に考え、その日の状態でおかゆや食べやすくするなど工夫している。水分は最低でも1000ccを目標にしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔内の清潔保持のため歯磨きを行っている。自力可能な方も見守りと確認をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表でパターンを知り、トイレ誘導している。夜間はポータブルトイレを使用される人もあり見守りをする。自力排泄が可能な人も、トイレの汚れ方等を観察して、異常を早期に発見するよう支援している	プライドや羞恥心に配慮した対応をしている。トイレ介助は時間で促し、相手を傷つけないよう上手に誘導している様子が感じられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の散歩や階段の上り下り、及び水分チェック(1日1000cc以上)、野菜等繊維の多い食事を工夫している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・一人一人の希望により外湯、内湯、にこにこの湯などで入浴している	デイサービスのにこにこ湯の利用を2日に1回行うなど地の利を生かして温泉入浴を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ベッド、布団など本人の希望や習慣を大切にし、方向も気持ちよく休息できる向きにするよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬は収納ケースに保管し、職員は説明書の内容を理解している。又、服薬支援と症状の変化に注意している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・食事やお茶の準備・片付け、歌、散歩など本人が役割や楽しみにしていることを支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩、買物、外出は一人一人の希望に沿って行っている。家族の祝い事、外食、お花見、紅葉狩りと、季節や天候に合わせて随時出かけている。地域の婦人団体の旅行にも職員と共に参加した	散歩が頻繁に行われ、利用者の外出の機会是非常に多い。施設の前がスーパーであることも利用者の買い物を楽しむという行為を実現しやすい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買物、理・美容時は可能な限り本人が支払うようにしている。預かり金は職員が管理しているが、希望に応じて所持している(上限1万円)		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・代筆や代読をして、手紙のやり取りを支援している。子供や孫、親戚、知人に電話をしたいときは自由にできるよう、自室でも話ができるよう支援している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・住居は利用者がこれまで生活してきた空間に近いので、安心して自宅のように居心地よく過ごしていただける。廊下、居室は畳を使用している。(新しいものはなるべく使わない)	古い木造住宅を改修した施設なので利用者にとってもよく馴染んでいて自宅であるという認識を持ちやすい環境である。廊下に畳が敷いてあるのも特徴である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・一人一人が自分の好きな椅子や居場所があり、外の人通りやスーパーへの人の出入りを見たり、利用者同士話をしたり自由に過ごしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は、本人が置きたいものや必要と思うものを自由に配置して、居心地良く落ち着けるようにしている(整理タンス、亡夫の写真、鏡台、椅子、カレンダー)	個人の希望のものが配置され、自分の居場所であるという雰囲気が充分出ている。和室を使いやすいよう上手に活用している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室が二階のため、最低でも一日2回は見守り介助で階段を上り下りしている。歩行困難な人は居室を一階にして、室内歩行を多くするよう介助している。(トイレや手洗い等も歩行の機会を多くするよう工夫している)		